

令和2年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：教育学部

事業担当者の職・氏名：准教授（留学生担当）・服部明子

内線電話番号：9360

電子メール：hattori@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

多文化教員養成を目的とした海外体験学習プログラム「海外教育実地研究B」の実施

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他（オンライン）

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

本事業では、以下の通り、講演会および国際交流活動を行った。

1) 講演会 (2020年12月14日)「ベトナムと日本語教育」

講師：伊藤亜紀 (国際交流基金ベトナム日本文化交流センター 日本語専門家)

Ta Thanh Hien (タ・タイン・ヒエン) (同所属 常勤講師)

2) 講演会 (2021年1月18日)「ベトナム初中等での日本語教育」

講師：武田素子 (国際交流基金ベトナム日本文化交流センター 日本語専門家)

Ta Thanh Hien (タ・タイン・ヒエン) (同所属 常勤講師)

3) タイ・チュラロンコン大学文学部との学生間交流 (2021年2月5日)

講演会・ワークショップには、国内外で日本語学習者の伸びが目覚ましく、初等教育の第一外国語で日本語が選択される学校も出てきたベトナムから、国際交流基金の日本語専門家3名を招いた。また、タイ・チュラロンコン大学文学部で日本語を学ぶタイ人大学生と三重大学生で学生交流を行った。「海外教育実地研究 B」の履修学生2名に加え、ユニパやHP等で周知し、本企画に関心のある全学学生・教職員にも参加を促した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

教育現場で急増する外国人児童生徒への日本語指導が行える教員養成の一端を担うとともに、海外体験を通じて国際化への取組に寄与するため、2020年度から授業科目「海外教育実地研究 B」(教育学部・学部共通開講科目)を新設した。担当教員は、服部明子(教育学部)、林朝子(教育学部)、大坪慶之(教育学部)、黄文哲(地域人材教育開発機構)である。当初、本事業は、「海外教育実地研究 B」における多文化教員養成を目的とした海外体験学習プログラムとして台湾での海外研修の実施を2021年2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で海外研修を中止し、海外の日本語教育に関するオンラインによる講演会とワークショップ、学生交流を代替的に行った。

(3) 事業実施結果

講演会の申込人数：17名

- ・学生：教育(4)、人文(2)、工学(1)、看護(1)、国際交流センター(1)、不明(1)
- ・教職員：教養(1)、地材(1)、人文(1)、非常勤(1)、学外(3)

参加人数

| 活動(実施日) | 参加者 |
|-----------------|---------------------------------|
| 講演会(2020/12/14) | 学生(6)、教職員(4)、学外(3) |
| 講演会(2021/1/18) | 学生(6)、教職員(7)、学外(1) |
| 学生交流会(2021/2/5) | 日本学生(9) タイ学生(18) 教職員3(内、タイ2) |
| 合計 | 57名 |

資料：講演会ポスター(学生作成)

満足度をお聞かせください

11件の回答

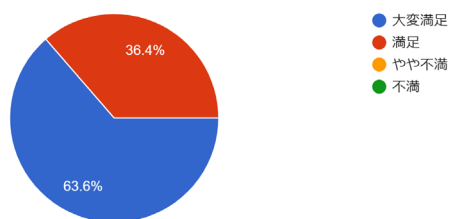


図1：講演会「ベトナムと日本語教育」(2020/12/14)

<参加者感想(抜粋)>

- ・このような機会がなければ、全く知識のないままでした。ベトナムのイメージがかなり変わりました。
- ・ベトナムの文化に間接的に触れることができるとも楽しかったです。また、課題遂行の説明がとても分かりやすく、自分の言語学習にも生かしていきたいと思いました。
- ・ベトナムの文化や地理的なことだけでなく、コロナの現状など、テレビやインターネットからなかなか知ることのできないことを教えていただけて、勉強になったし、ベトナムに行きたい、さらに興味を持つことができました。教育について、教科書を今まで、見たことがなくて、種類によって全然違ったり、目標の立て方も、指導するだけでなく、普段自分の目標を立てる時にも活用できるなどと思いました。
- ・ベトナムの文化について、あまり聞いたことがなく、とても興味深く、おもしろかったです。日本と共通する文化もあり、アジアを感じた部分もありました。
- ・今後の世界の日本語教育がどう変わっていくのか、とても楽しみになりました。
- ・ベトナムについてや現地の日本語教育や使われている教材について、はじめて知ることばかりで、大変興味深く聴講させていただきました。ベトナムの場所や食べ物から慣習などまで幅広く取り上げていただき、個人でインターネットを使って調べてもたどり着かないようなことが知れたように思います。訪れたことはなくとも、とても近い存在と感じられるようになりました。また、日本語教育については、「教師主導である」「学生はみんな真面目」などという現地ならではのことをお聞きすることができて、日本で日本語教育を行うときとは異なる様子や事情があることを、当たり前ではあるけれど考えられるようになりました。ほかの聴講されている方も話し合いをする機会があったことで、普段話す機会がないであろう人ともかかわりができいろんな考え方に触れることができ楽しかったです。
- ・「まるごと」のコンセプトが理解できました。「まるごと」を使用したことがないので、いつか使ってみたいと思いました。きっと日本への理解が深まるはずです。また、参加した学生方が良い質問をしていたので感心しました。

満足度をお聞かせください

9件の回答

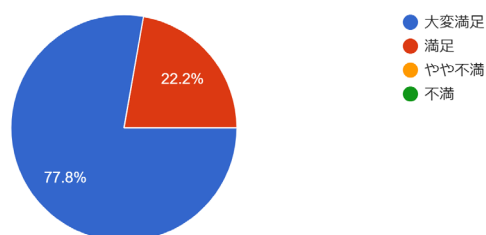


図2：講演会「ベトナム初中等での日本語教育」(2021/1/18)

<参加者感想>

- ・ベトナムの教育事情についてわかってよかったです。2回を経て、東南アジアの教育にとっても興味がわいてきました。
- ・ベトナムの教育や日本語教育について日本と比較しながら知ることができて楽しかったです。
- ・外国の日本語教育について知ることはあまりないのでいい機会になった。また、外国の教育について学ぶ機会があってもベトナムの教育について学ぶことはなかったので、貴重なお話が聞けて良かった。学校における日本語教育の実態だけでなく制度に関するお話も興味深かった。
- ・具体的な日本語教育事情がわかって勉強になりました。学校教育だけでおよそ半分近くの日本語学習者がいるというのは、充実した環境だと思いました。学生さんの進路や、日本語を学んだことが将来どうつながっているのかのような視点からの話も聞けるといいなと思いました。また、急激に増えている技

能実習生は、今日のお話とはまた違った側面から日本を目指す人たちかと思いますが、ベトナムの国策としてどのように進められているのか、気になるところです。

- ・ベトナムの初等中等教育における日本語教育事情が、自身が経験した状況とよく似ていたので思い起こすことがいろいろありました。多人数クラスで、元気な子どもたちに教えるのはかなり大変だろうと思いました。もう少し問題点や課題などが聞きたかったです。

今日の交流会はどうでしたか？
14件の回答

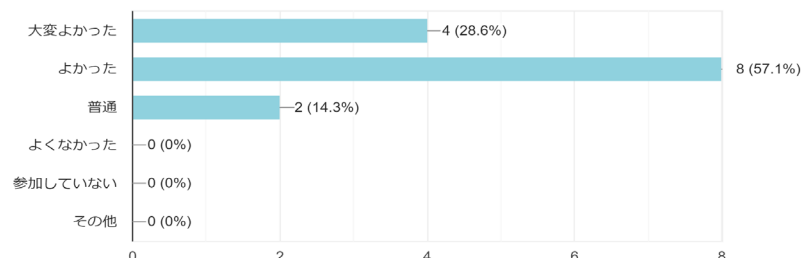
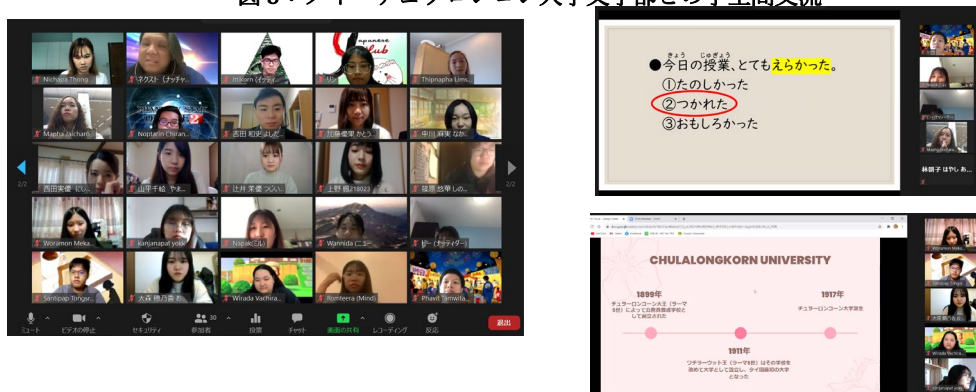


図3：タイ・チュラロンコン大学文学部との学生間交流



(4) 事業の意義

近年、日本語学習者が現地および日本国内で急増し、初等教育の第一外国語に日本語科目を接しする学校も出てきたベトナムから、国際交流基金の日本語専門家による最新事情をまじえたレクチャーが受けられたこと、タイとの交流では、新型コロナウイルスの体験を共有しながら国際交流ができたことが有意義であった。

また、本事業は、単発的ではあったものの、次のようなオンライン留学の側面を持たせることができたことへの意義が認められる。第一に、オンラインではあるが学生への海外体験への参加を促進し、日本語教育および異文化・多文化への理解を深める機会となったこと、第二に、日本語教育になじみがない学生や教職員にとっても、日本語教育とその関連分野について基本的な知識を身に付け、日本語指導の実践への理解を深める研修として機能していたことである。第三には、タイ・チュラロンコン大学文学部で日本語を学ぶタイ人大学生と三重大学生でオンラインの国際交流が実現したことが挙げられる。

(5) 事業の発展性

本事業では、国際交流基金ベトナム日本文化交流センターの方々およびタイ・チュラロンコン大学から全面的に多大な協力が得られたが、これは、教員（服部・林）の個人的ネットワークとリソースに依るところが大きい。今後は教員がネットワークの維持と多方面との関係構築に努めることで、学外にも参加者を広げた講演会やワークショップの実施に発展させる可能性があると思われる。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

該当の中期目標：「4 その他の目標 (1) グローバル化に関する目標」

該当の中期計画：「4 その他の目標を達成するための措置 (1) グローバル化に関する目標を達成するための措置」

(7) その他

特になし。